

### 1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成20年12月15日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	2872201138
法人名	医療法人 順心会
事業所名	しらぎくの家
所在地	加古川市野口町坂井字西の大町58-1 (電話) 079-430-0888
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号
訪問調査日	平成20年10月20日 評価結果確定日 平成21年1月21日

【情報提供票より】 (20年10月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤2人, 非常勤6人, 常勤換算6.7人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,450円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

#### (4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 86歳	最低	79歳	最高	97歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	順心病院 松岡心療クリニック
---------	----------------

#### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺はのどかな田園風景が残る住宅地の中の老人保健施設に併設されたホームである。ご利用者はホーム建物周辺に季節の花や菜園を植え、観賞したり育てることで心身機能の向上につなげている。敬老会の行事への開催・ボランティアの協力を得た催しの継続・近隣中学のトライやるウィークの受け入れ・民生委員や町内会役員の協力を得て、ホーム内で地域の方々とおやつ作りを楽しむ等、地域との交流の機会を持っている。職員は共に過ごす生活の中で、利用者の「できること・できそうなこと」を見極め、一人ひとりが自然に力を発揮できるよう配慮している。食事作りや後片付け・掃除等を、ホーム内での自分の役割として捉え自発的に行っている利用者もみられ、職員はさりげなく見守り、感謝の気持ちを伝えている。

#### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回評価結果について会議等で検討しケアサービスの点検や質の向上に繋げていくよう取り組んでいる。ホーム独自の理念を明確にする・地域役員の協力による地域交流の拡大・研修計画に基づくホーム独自の研修の実施など検討し改善に繋げている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価は前回評価結果を参考に管理者が中心に点検しまとめた後、職員間で確認して行くよう取り組んでいる。今後は職員全体で評価の意義や活用について再確認し、職員一人ひとりが評価項目を点検し日々のケアの振り返りとしていく事が望ましい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 会議は三か月に1回の開催で、ホームの運営状況・利用者の現状・制度改正・第三者評価等について報告し意見交換を行い、参加メンバーを通じて地域との関わりが深まるよう取り組んでいる。家族に配布している「しらぎく通信」に会議について掲載し参加を呼びかけている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族面会時に本人の現況を報告し、利用者の急変時等ではその都度速やかに連絡している。また毎月配布の「しらぎく通信」の中でホームの行事や個々の利用者の状況も伝えている。玄関に意見箱の設置はあるが、家族からの相談・意見は口頭での申し出が多く迅速に対応していくとともに、運営推進会議に家族の参加があり要望等を伝える機会を設けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 併設の老人保健施設やケアハウスとの連携のもと夏まつり・敬老会など行事の開催や、ボランティアの協力を得た催し等行われている。また近隣中学のトライやるウィークを受け入れている。運営推進会議のメンバーである民生委員や町内会役員の協力により、ホーム内で地域の方々と共におやつ作り等交流の場が持たた。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割について職員間で話し合いを重ね、法人理念を基本にグループホーム独自の理念を明確にしている。理念は玄関や事務所に掲示し浸透を図っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホームの特性や役割について理解を深め、理念が日々のケアに活かされるよう努めている。日常での申し送りや研修・カンファレンス等で、職員間での理念の共有化や実践に向けての取り組みについて話し合われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の老人保健施設やケアハウスとの連携のもとで夏まつり・敬老会などの行事の開催や、ボランティアの協力を得た催し等が継続されている。近隣中学のトライやるウィークを受け入れている。運営推進会議のメンバーである民生委員や町内会役員の協力により、ホーム内で地域の方々と共におやつ作りを楽しむなど交流の機会を持っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回評価結果については会議等で検討し、サービスの点検や質の向上に繋げていくよう取り組んでいる。運営推進会議において評価結果を公表し、参加者の意見を聞く機会を設けている。自己評価は前回評価結果を参考に管理者が中心に点検し、まとめた後、職員が確認して行くよう取り組んでいる。</p>		<p>職員全体で評価の意義や活用について再確認し、職員一人ひとりが評価項目を点検し日々のケアの振り返りとしていく事が望ましい。</p>
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は三か月に1回の開催となっている。ホームの運営状況、利用者の現状、制度改正等について報告し意見交換を行っている。会議メンバーを通じて地域との関わりが深まるよう取り組んでいる。家族に配布する「しらぎく通信」に会議について掲載し参加を呼びかけている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームの運営面や制度面の報告・連絡を通して関わりがあると共に、グループホーム連絡会の中で市の協力や交流がある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回の支払時など家族面会時に本人の現況を報告し、利用者の急変時等の状況の変化に応じては、その都度速やかに連絡している。毎月発行の「しらぎく通信」の中でホームの行事等を伝えるとともに、個々の利用者毎の状況も記載し配布している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にホームの苦情相談窓口を明記し入居時に説明している。玄関に意見箱を設置しているが、相談・意見等は口頭での申し出が多く、迅速に対応していくよう努めている。また運営推進会議に家族も参加し意見・要望を伝える場となっている。</p>		<p>苦情・相談を第三者に伝えるために外部機関（市や国保連等）の窓口も明記し家族に説明していくことが望まれる。相談等の結果については口頭で回答するとともに、状況に応じては報告書を作成し、サービス改善につなげていくことが望ましい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での異動は、利用者との馴染みの関係を維持していくために最小限にとどめるよう配慮している。異動があった場合は、家族面会時に説明し理解が得られるよう取り組んでいる。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修・勉強会に積極的に参加するとともに、外部研修への参加の機会もあり職員間での情報共有のために研修報告書を作成している。ホーム内では研修計画をもとに毎月勉強会を実施し、毎回ホーム独自のテーマにそって担当を決め自主的に取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>三か月に1回開催されているグループホーム連絡会に参加している。連絡会の中で定期的に勉強会を実施し管理者とともに職員の参加も勧めている。</p>		
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>併設施設からの入居が多いこともあり、早い段階から馴染みの関係を築けるよう取り組んでいる。ホーム内見学の中で、レクリエーションやおやつの時間を利用者とともに過ごす事で、安心感を持ってサービス利用ができるよう配慮している。</p>		
<p><b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b></p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の「[できること・できそうなこと]」を見極め、一人ひとりが自然に力を発揮できるよう配慮している。食事作りや後片付け・掃除等を、ホーム内での自分の役割として捉え自発的に行っている利用者もみられ、職員はさりげなく見守り、感謝の気持ちを伝えている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族から今までの生活歴やホームでの暮らし方の意向や要望を聞き、日々のケアに反映できるよう取り組んでいる。入居後もなにげない会話や行動・表情から本人の思いを把握し、職員間で申し送り等を通じて情報を共有し、本人主体のケアを行っている。</p>		
<p><b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの利用者のアセスメントを実施し、ニーズを明らかにしている。一人ひとりの情報をケアカンファレンスで検討し担当職員や計画作成担当者が介護計画作成に携わっている。家族への計画説明時は意見・希望を尊重し、理解と同意が得られるよう配慮している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的には、3カ月に1回の見直しを行っている。また利用者の状態変化に応じて随時見直しができるよう努め、日々の介護に計画が反映されるよう取り組んでいる。</p>		<p>利用者の日々の変化や要望に柔軟に対応していくために、状態が安定している利用者の場合も月に1回程度介護計画の振り返りや確認を行っていくことが望まれる。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設の老健やケアハウスと隣接しており、老健からの転居者が多く、情報は詳細に伝達されている。夜間の急変時は老健の協力体制が整っている。受診時は家族の代わりにスタッフが付き添っている。管理者も近隣に在住しており、緊急時はすぐかけつけられる体制をとっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度は提携先のかかりつけ医の受診日を設けている。他の病院を受診する際は回数を問わずスタッフが対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設の老健の協力が得られる状況にあり、過去に2度重度化の症例の経験がある。重度化の対応の際は家族を含め、近隣の救急病院、主治医と話し合い、方針を決定している。		
<b>5. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的な発行誌に掲載されているご利用者の写真や個人情報については家族に了承を得ている。排泄誘導についても周囲に気付かれないようさりげなく声かけをし、プライバシーの保護に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は決められているが本人の希望・状態により柔軟に対応している。食事の時間、起床、就寝の時間等本人のペースに合わせて過ごしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	調理師の免許を所持しているスタッフが、食事を作っている。近隣の商店から毎日食材を届けてもらい、新鮮な食事の提供ができています。入居者が自発的に食器を洗ったり、下膳したりすることをスタッフは注意深く見守っている。		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	3日に1回、個浴にて入浴している。入浴拒否があれば無理強いせず次日に入浴を変更し、利用者の希望があればいつでも入浴することも可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	施設の庭での野菜栽培・園芸など、個々の好みに合わせて楽しむ機会作りを支援している。貼り絵は共同で作成し、塗り絵や歌の好きな方には自由に行ってもらい、気持の活性化を図っている。		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	施設の周りの遊歩道に散歩に出掛けている。途中に椅子があり、休憩しながら散歩を楽しんでいる。春は花見にバスで同系列の施設の近くへ出かけ、また、動物とのふれあいを楽しむため、近所のホームセンターへ行くなど日常的な外出の支援を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は押しボタン式の自動ドアになっており、ボタンは手の届きにくい所に設置している。家族から事故予防のため施錠して欲しいとの要望がある。スタッフに対しては、身体拘束についての意識付けを行なっている。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との防災訓練を実施しており、さらに、2ヶ月に1回模擬訓練として消防署への通報訓練を行っている。緊急時の連絡網も整備されている。また非常時の備蓄は100人分を蓄えている。		運理推進会議を通じ地域の協力が得られるよう働きかけることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はチェックし、排泄量が少ない場合は水分補給に努めている。利用者の状態について相談し、ドクターの指示があれば栄養についての調整を行っている。体重増加の傾向がある利用者に対しては家族と相談し、食事コントロールを行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光が差し込む共同空間であるリビングは明るく、季節感のある花を飾り、居心地のよい環境づくりが見られる。庭にも容易に出ることができ、厨房からの調理する音や匂いが五感刺激となっている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者が以前自宅で使用していたものを置き、落ち着いた空間を作り上げるよう工夫されている。家具調のベッドが家庭らしさを感じることができる。		

は、重点項目。